

## 有馬キリシタン遺産記念館

この小さな記念館は、近くの海岸にある原城跡に向かう途中に佇んでいます。現在は世界遺産に登録されている原城は、島原の乱の中心的な戦場でした。島原の乱は、島原領主松倉勝家（1598-1638）が課した重税や宗教的迫害に耐えられなくなった農民たちが起こした反乱でした。キリシタン武士の指揮のもと、2 万人以上の反乱軍が籠城し、城が陥落するまでの数ヶ月にわたって兵力約 12 万の幕府軍に抗戦しました。反乱軍の敗北に伴って大規模な虐殺が行われ、城は作法に則って取り壊されました。

記念館には島原の乱の勃発に至るまでの出来事を説明したパネルも展示されています。特に目を引く展示は、原城の正門周辺から剣や槍で切りつけられた人骨とともに出土した非常に大きな遺構の模型です。同じく城内から出土した十字架やロザリオ、火縄銃の弾も同じ部屋に展示されています。また、二人の偉大なイエズス会の聖人、イグナチオ・デ・ロヨラとフランシス・ザビエルがそれぞれ裏面と表面に描かれたメダイもあります。この二人は 1622 年に列聖されたことから、これらのメダイはキリスト教禁教令が出された 1614 年よりずっと後に日本に密輸されて島原に渡ったに違いありません。

二つ目の展示室では、ヨーロッパ商人の到来と彼らが日本に与えた影響を紹介しています。グレゴリオ聖歌の楽譜から実物大の印刷機にいたるまで、幅広い資料が展示されています。また、島原の乱の背景を解説した字幕付きの映像も上映されています。